北九州 EVENT・トピックス

最期の時を自宅で

3月26日に福岡県水巻町の遠賀中間医師会館で開かれた第139回患者塾の後半のテーマは「最期の時を自宅で」。在宅で最期の時を迎えるためにはどんなことが必要かなどを医師が説明した。

ターミナルケア

西野さん　在宅で看取ることが難しい状況は①痛みがどんどん強くなって、痛みの管理が自分でできなくなった時②水分や栄養管理が難しくなって来た時③認知症の場合――の三つです。西野病院で昨年度訪問看護をした延べ約1000人の内訳は看護が約750人、リハビリが約40人。亡くなった18人のうち9人は限界まで自宅で、3人は最後まで自宅で過ごしました。

ターミナルケア（終末期医療）は、死が迫っている人をできるだけ苦痛が少なく新しい世界へ移してあげる援助をすることです。あらゆる治療をしても治癒に導くことができない状況で、むしろ積極的な治療が患者にとって不適切と考えられる場合です。

できるだけ苦痛を少なく

津田文史朗さん

グループホーム

〈福岡市の58歳女性▽認知症の母親がグループホームに入っています。母は「最期は家で」といつも言っていましたが、グループホームは母にとって「家」や「自宅」と考えていいのですか。

西野さん　グループホームは介護保険の中の「家」という扱いです。「自宅ではない在宅」と言いました。認知症でも長く住んでいる場所が「家」に変わることがあります。この方は娘さん2人が交代でグループホームに寝泊まりし、最期を一緒のではなく、途中で変わっても「それも自分なんだ」と受け止めて過ごせるようにしたいと思います。

「自宅ではない在宅」

時に応じ変わる死生観

西野憲史さん

西野さん　ターミナルケアを自宅で過ごす条件は、①本人が在宅ケアを望む②家族が納得して受け入れている③ある程度症状が緩和している④適切な医療と看護のサポートがある⑤居住環境と経済的状況が整っている⑥いざという時の受け入れ病院がある⑦かかわりの薄い家族や親戚の強い反対がない――などです。

津田さん　健康な時と、病気をして追い込まれた時に考える内容は変わってくると思います。「最期は自宅で」という考えで最後まで過ごせるようにしたいと思います。

西野さん　生きることと死ぬことをどう考えるかの死生観は、元気な時と弱った時では全く違っていきます。ぜひいろいろな時に何を自分は希望しているのかを考える必要があると思います。

医療の疑問にやさしく答える
患者塾

◇出席された方々　井上さん　八幡病院（福岡山王病院（福岡市）▽津田文史朗さん＝つだ小児科アレルギー科医院（福岡県水巻市）▽伊藤重彦さん＝北九州市立八幡病院▽井上征雄さん＝北九州市立八幡病院▽平田敬治さん＝西野憲史さん＝西野病院（北九州市）▽司会　小野村健太郎さん＝おのむら医院（福岡県芦屋町）

記者の一言

迎えました。

小野村さん　大震災のため、プライバシーのない避難所で過ごしている人が大勢います。「自宅で最期を」と言う場合の「自宅」とは「ストレスがなく自分が本当にくつろげる場所」という意味なのかなと思います。

東日本大震災の取材で2週間、現地に入った。家を流された被災者に話を聞くと、「海の近くで建て直すのは怖い」という声がある一方、「もう一度建て直す。必ず戻る」と力強く語る人もいた。

もしかしたら津波にまた襲われるかもしれないという恐怖心はあっても自分が暮らしていた場所に帰りたいという思いは理屈じゃないんだと感じた。

避難所生活を送る人も、病気で入院生活を送る人も、帰りたい「自宅」がある。実現には困難も多いだろうが、行政も医療機関も、その理屈ではない思いだけはくみ取ってほしい。

【佐藤敬一】

質問は事務局へ
〒807-0111
福岡県芦屋町
白浜町2の10
「おのむら医院」内
電話093・222・1234
FAX093・222・1235

おのむら版 患者語・医者語辞典

ドライアイ
（英語　dry eye）

患者語；目がよく乾く場合、ドライアイと呼ぶ。病気と言う程のものではない。乾いたと思った時に市販の目薬をさせばよく、受診する程ではない。

医者語；涙を構成する油、水、粘液の、どの成分が不足してもドライアイになる。涙が出にくくなるシェーグレン症候群などのほかレーシック手術の後は数カ月ドライアイになる。そのほか、冷暖房の使い過ぎや長時間のパソコン作業、ソフトコンタクトレンズの乱暴な使用などが原因で起こる。適正な診断と治療が必要。

◆　◆

パソコン画面やテレビの画面などをずっと見ていると、まばたきの回数が減るため、角膜が乾いてドライアイになりやすくなります。冷暖房を使い過ぎると角膜表面から水分がたくさん蒸発するため、角膜が乾燥します。ソフトコンタクトでは、表面から涙が活発に蒸発しドライアイになりやすくなります。一般のオフィスで3割か4割の人がドライアイとも言われます。軽く見られがちですが、我慢して仕事を続けていると、重症の角膜炎になり、取り返しのつかなくなることがあります。